

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
朝日町	中部地区(本町、西町、栄町、助ノ巻、大町、元町、西原、前田沢、新宿、四ノ沢、小原、宿、沼向、平、大隅、古槇、送橋、下芦沢、水本、杉山、松原、宇津野、大滝、雪谷、緑町)	令和4年2月25日	年 月 日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	514ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	285ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	85ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	47ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	10ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	10ha
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

当地域は、アンケート調査結果より、生産者の高齢化、担い手不足が進んでおり担い手の確保が課題となっている。
農地保全のため、担い手の確保、規模縮小したい生産者から拡大したい生産者への農地流動化が急務である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

水田:生産者の高齢化による担い手不足が進む状況下であり、以下の項目の取組みが必要
 ・農業体験等イベントを実施し、新たな担い手の創出、若者等の担い手の確保を図る
 ・作業効率を高めるために、今後スマート農業化を進め、担い手の確保、農地集積化を図る
 ・米の新たなブランド化に取組む

果樹園:生産者の高齢化による担い手不足が進む状況下であり、以下の項目の取組みが必要
 ・農業体験等イベントを実施し、新たな担い手の創出、若者等の担い手の確保を図る
 ・6次産業の推進による農業所得のアップを図る
 ・みつりんごのブランド化に取組む

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実に市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

労働力の確保と担い手の育成

- ①担い手への農地集積・集約が進むよう効率的な農業を実現するためスマート農業を積極的に活用する
- ②子どもたちや地域外の人に向けた楽しい農業体験を和合平で提供し地域農業の魅力を知ってもらい後継者の育成につなげていく
- ③大学生や外国人等将来の後継者につながる農業体験メニューを創る

ブランド化による地域農産物の魅力アップで農業所得の向上

- ①みつりんごと米の戦略的なブランド化を図ることで朝日町の農産物の価値を増大させる
- ②ワインに合うナッツ類の加工品の開発を行うことで商品力を向上させる
- ③耕作放棄地を活用し朝日町だからこそ作れる農産物を研究・開発する

イベント・観光による地域農業の活性化により地域農業のファンを増やし、新たな担い手を創出

- ①りんご温泉を核とした楽しい農業イベントを開催し宿泊の充実や農泊を盛り込むことで交流人口を増大させ朝日町の魅力を伝える
- ②遊休農地を観光と合わせることで有効活用できる新たな農地利用の方法を地域一体となって創出する